

# 令和4年度 事業報告について

## 事業概要

令和4年度は、国のコロナ感染拡大に対する前年度からの入国制限措置やまん延防止措置等の効果により前期は縮小傾向となったことから、定時総会は万全な防止策を講じ3年ぶりに一堂に会しての開催が出来たものの完全な回復には至らず、ロシアのウクライナ侵攻を一因とする物価高騰や32年ぶりの円安など社会経済が激動した年となり、受注件数が減るなど事業面で少なからず影響を受けました。

また、65歳定年制の導入や企業における70歳雇用努力義務など雇用環境の変化による入会会員の減少と会員の高齢化が更に進み、**会員不足**の状況が益々深刻な課題となつて、あらゆる事業運営に大きな影響を及ぼしています。

しかしながら、シルバー人材センターは、長期の人口減少過程の中で、生涯現役社会を実現するために働きたいと願う高齢者の就業を高めていく担い手として、地域社会の期待が一層大きくなっていることから、役職員や会員が第四次中期（5か年）計画に沿って、その実現に取り組んでまいりました。

特に、コロナ禍で中止や縮小した従来からの事業については、その時点での感染状況を見極めながら最大限に実施するとともに、組織活動の充実や会員拡大に繋がる地域活動等参加推進ポイント制の活用増を図るための改正や、年会費の検討を行いました。

加えて、今年度10月から導入されるインボイス制度への対応では、須高3市町村議会に内閣総理大臣をはじめ政府関係機関への意見書提出を願う陳情をし、可決を得ました。さらに新たな負担が生じた場合の財源確保について検討し、事務費率の令和6年度からの2%引き上げを決定しました。

最重要課題であります**会員の拡大**については、会報「シルバー須高」やホームページの活用、高齢者活躍人材確保育成事業の活用、入会説明会開催回数の増、入会の迅速な承認、地域班や会員の口コミによる「会員ひとり1会員拡大」活動のほか、退会者が前年より少なかったことから、**会員数**は3月末で618人となり、前年度同月末会員数との比較では7人増と僅かながらも4年ぶりに減から増に転じました。

**事業面**では、請負・委任事業においては、受注件数は、3,403件で、36件の減となったものの、3月末の事業収入は、301,354千円で、前年度同期比4.1%の増となりました。就業率は、88.5%でありました。

派遣事業についても、契約額は、31,366千円となり、前年度同期比8.7%の増、受注件数は21件で1件の増となりました。

この結果、請負・委任及び派遣事業の収入等の合計は、332,720千円で、前年度同期比4.6%の増となり、徐々に上向いている状況となりました。

**安全就業**につきましては、事故件数は、令和5年3月末で傷害・賠償等合わせて5件で、前年度との比較では1件増となってしまいました。

昨年に引き続き、「安全就業推進大会」が中止となり、事故を未然に防ぐための危険予知訓練（KYT）なども十分には実施できませんでしたが、安全ニュースの発行や作業現場の確認の徹底等により、安全就業の推進に取り組んでまいりました。

なお、普及啓発活動ではハローワークで出張相談会を、地域に開かれたシルバー人材センター事業では農園等の収穫野菜を駅前シルキーb o t aで新規に始めました。

以下、主な事業等について報告いたします。